

平成 21 年度

# 相 楽 ぶ る さ と 塾

( 第 1 6 期 )

## 活 動 報 告 書



相 楽 郡 広 域 事 務 組 合



## CONTENTS

ごあいさつ	1
塾生意見発表	2
活動概要	2 7
開催状況	2 8
塾の開設計画	3 9
修了生名簿	4 1



相楽郡広域事務組合

代表理事 木村 要

## ごあいさつ

---

塾生の皆様には、それぞれお仕事に従事されながら、あるいはご家庭の主婦として、さらには、各地域での役職なども兼ねながら、ことのほかお忙しい方々ばかりではありますが、開講式以来、本日まで10回にわたる講義、相楽圏域内の視察研修に終始熱心にご参加を賜り、誠にお疲れ様でした。

さて、ご承知のとおり、この「相楽ふるさと塾」は、ふるさと市町村圏振興事業基金7億円の運用益をもって運営している事業で、相楽圏域内の文化振興やまちおこしなど、広域的なソフト事業のなかの中心的な事業でもあります。本年度で16回目を迎え、この課程を終えられた塾生は、270人となりました。これらの方々の中には、各種イベントへの参画やボランティアへの参加など、積極的に地域に根ざした活動をされている方が多数おられます。

塾生の皆様には、この「相楽ふるさと塾」で会得された知識、情報、あるいは、人脈を生かし、地元や職場、活動場所に持ち帰っていただき、力強いリーダーとして相楽圏域の発展に寄与していただきますようお願い申し上げます。

# 塾生意見発表



## 我が故郷<sup>ふるさと</sup>に思う

木津川市 浅田 武之

京都駅から歩いて10分。緑豊かで九条ネギ畑が広がり、何処からでも東寺の塔が見通せる一帯が私の生地。

その頃の寒い冬の朝の光景。焚火を囲んで、大人たちは楽しく語り、暖をとった子供たちは列をなして学校へ。下校後は、三々五々に集まって凧上げやコマ回し、竹馬に興じた。時には、誰かの家に上がり込み、カルタや双六に夕食時間の過ぎることも。

蒸し暑い夏の夜。地蔵盆の世話で疲れた大人たちが縁台を並べての夕涼み。あるいは「へぼ将棋」に興じる仲間も。夏休みの終わる頃、櫓を囲んでの盆踊りには、子供たちもこの夜ばかりは門限なしで踊りの輪の中へ。

こんな温かいふるさとの『町』が、古くからの風習や行事を守り続けてきた『向こう三軒両隣』が、あるいはお互いが恰も“家族”のように親しんだ『町内』が、そしてそれらを包み込む『自然』が、半世紀たったいまは殆んど姿を消した。

こうした流れを、人は《成長・発展》と呼ぶ。

その流れを引き起したのは、次の諸点が大きな起爆剤になったと考えています。

- (1) 江戸時代の250年間以上続いてきた幕藩体制、即ち地方分権制度が、明治に入り、中央集権制に代わり、言葉や教育なども政府の“標準”なる名の下の一元管理下に統制されたこと。
- (2) 『自然界』の全てを《神》の姿と考え、自然を恐れ、崇めて、そして自然と共生するというそれまでの先祖代々受け継がれてきた生き方が、第2次大戦の敗戦により、忘れ去られてしまった。神道と軍部との結びつきから、神に対する否定的、懐疑的な方向性が前面に出され、同時に欧米からの科学万能、科学技術の効用に対する傾倒が神なる不可解なモノを圧倒し、遂には自然=神を屈服し得るモノとの思いが国民の心の中に芽生え、浸透していったこと。
- (3) 戦後の欧米の先進科学に基づく快適で便利な生活への憧れと、資本主義制度の「成長」オンリーの政治が、国土をコンクリートで埋め尽くし、人と人との繋がりや温もりよりも、カネ・便利・快適・快樂を追い求める日常生活。そのためには他人との競争に打ち勝つことが何よりも大事という考えが広く蔓延する結果を招いた。

(4)さらには、全国のテレビ放送が東京一局からの電波で占められ、あらゆる情報が「東京発」で日本中を席卷してしまった。人の心も、匠の技によるモノも、全てが同じ色に染められ、地方色や郷土の誇りが脇へ追いやられる結果となったこと。

何も、全てを昔の姿に戻せ、などと主張するものではありません。

しかしチョッと立ち止まって、わが民族の“越しかた”を振り返ってみるのも大切なことではないでしょうか？

科学の進歩が一人で特急列車の如くに突っ走り、私たちの先祖が積み重ねてきた大切な遺産“自然との共生”“圧倒的に強い自然にひれ伏しつつ、人と人とが助け合い、心を通わす”という生き方が全く置き去りにされてしまった結果、「人間らしい生きざま」まで失いつつあることに、将来の不安を感じるのです。そう、国土や人間の成長とは、先祖が守り続けてきた遺産の価値をしっかりと見つめながら、特にその中での『自然との共生、神々との温かい交わり』を忘れないで、バランスよく、ゆっくりと進んでいくことが大切だと信じるからなのです。

## 「相楽ふるさと塾」に参加して

木津川市 林 千歳

広報に載っている「相楽ふるさと塾」の案内を見て、木津川市に住んで何年にもなるのに、相楽地方、木津川市のことなど何も知らないと思い「相楽ふるさと塾」に参加いたしました。

私の思っていた「相楽ふるさと塾」とは、相楽地方の歴史、風俗、地理、特産物、等々、勉強をするのかと思っていましたが、そういうものを踏まえたうえで、現在の相楽地方を市民と行政が一体となって発展させていく勉強という難しい内容でした。理解できるかなと最初の段階では不安になりましたが、なんとか9回まで受講することができました。印象に残っているのは、第3・4回の視察研修でした。打越台環境センターでの視察では、ごみ処理に関して、身近な問題でもあり、まずは、住民のマナー（分別）を守ることの大切さ、そして市民の理解のもとに新しいクリーンセンターが一日でも早く完成して、センターの職員の方々の環境も改善されればと思いました。

そして、南山城村の田山生涯学習センター（旧田山小学校）を見学したとき、パンフレットには色々とトンボ玉等々紹介してありましたが、平日ということ

もあったのでしょうか、ほとんど体験等できるものではありませんでした。

そして、カフェネコパンでの昼食は、全く期待はずれでした。南山城村の食材を使った料理を期待していたのですが、何時でも何処でも作れる料理でした。この料理をみても学習センターといっても、まだまだ地元住民のセンターではなく、他の場所からセンターに来て働いている人たちの場所というような印象を受けました。このことから、行政の役割(資金の提供、住民へのアピール、指導)そして、それに対する住民の柔軟な意識、行動の大切なことを痛感いたしました。

この塾での9回の勉強を通して、最初は「何か自分たちにもできることがある。」等、思いも及ばなかったことを「何か自分たちにもできる。」というように、意識の変化を与えていただきました。小さな自分革命の9回でした。今後、何かお役に立つことがあれば、微力でもお手伝いさせていただきたいと思っております。

## 日々知識吸収

木津川市 平井 清次

定年退職後一年間立命小学校におせわになり、平成21年4月不動産を子供に譲り京都市内から木津川市に転居してきました。

木津川市の知識としては、京都の南端で奈良に近く公共機関の便利な所と、学研都市の一部で平成19年市町村合併により新しくなったという程度の知識でした。

転居してから市の広報紙により、木津川ふれあい文化教室、NPOふるさと案内かも、及びやましろ、ふるさと歴史教室等に参加し木津の歴史が古く、平城京以前からの役割、聖武天皇による加茂から山城・木津かけての恭仁京に3年間都が置かれていたことが、発掘調査で証明され、又、伊賀、奈良、清滝街道、及び木津川にて近代まで奈良・京都・伊勢・伊賀・伏見・大阪を結ぶ宿場町・船宿(笠置・加茂・瓶原・木津・吐師・一口)として、材木、信楽焼、茶、綿、梅、柿、牛蒡等の農産物、塩、油粕当の生活物資の流通とし繁栄していた事を知りました。

又このたび、「相楽ふるさと塾」にて色々な事を学び教えて頂きました。

施設見学にて、東相楽(笠置・和東・南山城)地方のひとは、茶と観光だけで人口減少、財源確保が難しいが地域性を活かし努力していると言っていたが、取

残されたと言葉の裏に感じ又、特に昔から相楽は一つという意識が強く感じられた。

住民の意識の変化により、今までの国の指示待ちでなく自助努力が必要になってきた、民主党により行政刷新会議の事業仕分けの実施の中でも地方自治体、民間に任せるという結論が出て、国の基準をどの地方も一律実施していることが問題となっている。

少子高齢化社会の中で相楽地域を繁栄させるには何をなすべきかが問題です。

- |             |                                                                                                                         |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 住み良い町づくり    | 住んでみたい町とは？ 活気のある町とは？<br>安心・安全・環境・文化・物価、便利、地域の個性化、住民参加の町                                                                 |
| 誇れる物産品      | そこに行かなければ無い物、ブランド力を高め付加価値を付ける<br>第1次産業から第5次産業に転換、生産から加工、食品流通販売、個別でなく地域共同体制                                              |
| 健康維持ライフスタイル | 歴史、文化財、自然環境観察、ハイキング<br>歴史的な寺院、大和古墳、奈良時代の史跡、オオタカ観察の里山、万葉の道、山脊古道の自然ハイキング、古代ロマン探訪とコースの整備、案内人の質の向上養成                        |
| 住民と身近な町創り   | 住民との協調、自助・共助・公助<br>地域の活性化、学研都市としての地域性を活かす、広報紙等による有効な情報提供と住民の意見の反映、住民参加の行政へ参加により行政機関に新風の育成、行政と住民の知識技術が一体となった地域活動、情報公開と公有 |
| 広報アピール      | 報道機関、府民新聞に掲載され易い情報の提供、公共機関にポスター、パンフレットの設置                                                                               |

等色々考えられますが、其々地域に密着した今まで培った知識、技能を活かし自分に合った活動ができればと思います。

## 協働のまちづくり

木津川市 三村 俊雄

昨年度、木津川市においては第1次木津川市総合計画を策定、その中で市政のめざすべき将来像を「水・緑・歴史が薫る文化創造都市」と定め、その実現に向け船出しました。その基本原則となる3本柱、それは協働・参画・情報の共有です。協働とは市民と行政がそれぞれの役割と責任を自覚し、持てる力を出し合い課題解決や新しい社会づくりをめざすこと。参画とは市民として単に参加するのではなく自らが主体となって多様なまちづくりに企画・立案から積極に関わっていくことです。また、行政の積極的な情報開示のもと、情報の共有は目標達成には不可欠なものでしょう。

今回「相楽ふるさと塾」を受講し、木津川(旧木津・加茂・山城)・笠置・和束・精華・南山城のそれぞれが持つ特性や抱える課題が感じ取れた様に思います。恵まれた自然環境や豊富な歴史的遺産に恵まれてはいるものの反面、道路網、公共下水など都市基盤整備が遅れている地域、また、ハード・ソフト両面でバランス良く都市化され、急激な人口増加が進む新市街地。このことは木津川市域の中においても、また、相楽地域全体においてもいえるのではないのでしょうか。

ではどうすれば現在の厳しい経済状況の下、地域力が発揮できるのでしょうか。私は「ひと」だと思えます。幸い相楽地域は人材の宝庫です。代々より地域に根差しその文化・伝統、環境など脈々と受け継ぎ守ってこられた方々、片やいわゆる団塊の世代はもとより、豊富な経験や特異なスキルを持った方々が新市街地には多く住まわれていると思えます。それら双方の持っている知識・情報・人脈などが活かすことができるシステムづくり、例えば人材バンク登録制度などの地域ネットワークづくりができればと考えます。このことは大変重要なことと思えます。

現在、私は近隣の皆さんと一緒に地域の自主防災活動や里親ボランティアとして児童公園の花壇づくりなどに取り組んでいます。今回、ふるさと塾で得た知識・情報などを大いに活用し、今後も安全・安心なまちづくり・地域づくりに取り組んで行きたいと考えています。

## その良さが実感できるふるさとを

木津川市 宮園 伸也

ふるさとは、遠きにありて思うもの、は昔のことで、相楽、木津の団地が私のふるさとである。それは、遠くの友、親戚に自慢できる、そんなまちであってほしい。そのためには自ら何かをすべきであるが、とっかかりがつかめない。その時、広報で「相楽ふるさと塾」を見て、入塾こそ最善の道と考えました。得るところ大でありました。

文化、教育、福祉、安心、安全、交通、環境、観光等は目指すまちの要件であります。中でも年寄りから子供まで安心、安全は共通重要ポイントなので、とりあえず、この点から貢献できたらと考えます。また、地域資源を活かしたまちづくりですが、月並みな発想として、木の津を誇る木津川市なら、木津川を整備し、観光資源を活用することは壮大な課題と考えます。

私は、現在2つのボランティアをしていますが、今後は塾で身につけたことをベースに体力と能力の範囲でさらに役立っていきたいと思っています。

## 「相楽ふるさと塾」に受講して

木津川市 吉田 静子

「相楽ふるさと塾」に参加しようと思ったきっかけは、一緒に受講している林さんからお話を聞き、そういえば、10年木津川台に住んでいて、この地のことは、何も知らないと思いました。考えてみれば、80歳になるまでに色々な所に住所を置きましたが、一度もそんなことを考えたことがありませんでした。

軽い気持ちで申込みましたが、先生方のお話を伺って驚きました。頭が固くなってしまって、吸収力が悪く、理解力もほとんどありません。どうしようかな？と思いました。折角、受講させていただくのに、せめて最後まで座らせていただき、少しでも自分にわかることがあれば、1つの進歩だと考えました。そして、第3・4回の管内視察研修は、唯一理解でき考えさせていただくことができました。最初に見学させていただいた打越台環境センターで庭内に入った途端の臭気に驚きました。自分たちが出しているごみがこんな形で焼却されていることを初めて知りました。今後のごみの出し方、分別の仕方等を考える良い機会になりました。焼却場で働いてくださっている方々に感謝し、頭が下が

りました。木津川上流浄化センターと比べて、新しい施設ではこんなに違うものなのかと思いました。色々な問題があると思いますが、1日も早く新しい焼却場のできますことを願ってやみません。

笠置寺、笠置山行場めぐりについて、厳しい道で一寸、心臓に故障のある私には大変でしたが、皆様について廻れましたことは、大変嬉しいことでした。本尊弥勒磨崖石の中の弥勒仏がすべて磨滅しているのには驚きました。歴史と年月と自然の重たさを感じました。他の磨崖仏のことも心配になりました。山頂からみた下界のすばらしさに歓声を上げました。

色々勉強させていただき、今までは何もできないと思っておりましたが、私にも何かできることがあるのでは、と思うようになりました。1人ではできないことでも、皆様にお力を貸していただき、少しでも世の中の役に立つことがあればと考えています。今後とも宜しくご指導くださいませ。

## 「相楽ふるさと塾」を受講して

木津川市 坂田 夏夫

「相楽ふるさと塾」に参加させていただき、その設立趣旨、運営に対するご尽力、今回が16回目という長期にわたる継続の力に目を見張るばかりで、感謝の気持ちで一杯です。今回、相楽郡広域事務組合の第2次相楽地区ふるさと市町村圏計画にあります基本目標、展開施策、そして諸先生のすばらしいご講義を通じて、「身近な地域資源を活かしたまちづくり」のテーマに対する切り口、課題、方向づけ等が具体例のご紹介も含め詳しく示されました。また、視察研修を通じて大変熱意のあるご説明が多く感銘を受けました。ひしひしと期待されているのを感じ、そのことにどう答えてゆけるのか、1歩をどうスタートさせることができるのか、具体的に何を...と暗中模索のところでした。

ただ、小室先生が講義で「人と地域を紡ぐ担い手をめざして！」の中で、まず行動、そして何より楽しむことがポイントだとお話されました。

このことを肝に銘じ、問題意識を持ち、積極的に今回勉強させていただいたことを活用するべく1つでも地域に役に立つ行動をして努力をしてゆきたいと思っています。

## 再び「相楽ふるさと塾」に学んで

木津川市 長柄 教雄

「恭仁の京(みやこ)を生かして 誰もが 安心して暮らせる 瓶原」を目指して活動する瓶原まちづくり協議会の前身の組織に区長から指名されて端役に就いたのが平成13年度のこと、このときから所謂まちづくりに関わるようになりました。

平成13年から15年にかけて、瓶原の将来像を策定する作業が多忙な時期でありましたが、平成15年度(第10期)「相楽ふるさと塾」でお世話になりました。

当時は町村合併論議が華やかな時機で、当然テーマは町村合併でありました。しかし、現実には郡内の合併協議が頓挫し、思惑や駆引きが渦巻いていました。

時は流れて、平成19年3月に3町合併してめでたく木津川市が発足しました。当時マスコミは祝賀の記事とともに、住民はこの合併に期待とともに不安を抱いているのではないかと懸念を表明していました。当時の朝日新聞(3月10日号)では加茂、山城両町には 周辺部としてこのまま廃れていくのではないかと、という想いが根強くある。何も手を打たなければ、周辺部の衰退はこれまで以上に早いテンポで進む～いま 地域の実情にあった政策を打ち出せる住民主体の地域自治組織を如何に作っていくかが課題であると指摘していました。

あれから2年10ヶ月が経過し、辺境の瓶原住民にとって 色んな点で 不安が現実のものとなって現れてきています。瓶原まちづくり協議会は正に住民主体のまちづくり組織であり、その端役も8年目になります。衰退の流れに竿をさして合併のメリットが公平に周辺部にももたらされる様に頑張りたいと思っている。

そのためには徒手空拳ではどうにもならないので、まちづくりの手法を学ぶために今年度は仲間と共に「相楽ふるさと塾」にお世話になった次第です。

さいわい、瓶原のまちづくりの活動範囲は、多方面に広がり、少しずつ実績を積んでおり、地域も活性化しつつあります。

それに、瓶原には史跡・恭仁宮跡、「みかの原 わきて流るる いづみ川 いつみきとてか 恋しかるらむ」という新古今和歌集の和歌、海住山寺の国宝五重塔等埋蔵文化財、有形・無形文化財が多々ありますので、これら地域資源

を活かして、瓶原が尚一層活性化するように取り組みたいと思います。

私の人生を登山に例えれば、9合目を過ぎて 山頂が見えてきました。これからは 歩みをゆっくりし、健康で 長生きしながら 少しでも 世間の役に立つように 頑張っていきたいので、今後も宜しく御指導を御願い致します。

一年間お世話頂き有難うございました。

## ふるさと相楽は変わったか

木津川市 福井 満

平成 18 年度にこの塾を受けての再受講ですが...それぞれの思いは同じように思います。造成地は増えて人口は増加して来ましたが、相楽の西部が都市化し、東部はますます過疎化が進んでいるように思える。私たちの加茂 = みかの原地区はその境で、どちらに向かうのか...迷っているようだが...今少しずつ新しい動きが始まったように思える。少しでも、この機運を高めていき、少しでも協力していきたいと思っています。

## まちづくりと人の育成

木津川市 森下 譲二

私は、36 年間の公務員と 4 年間の民間会社の合わせて 40 年間の職場を経て、昨年 7 月末を以って、晴れて自由な(?)ただの人となったつもりでした。職場を辞める 5 年ほど前から、地域の活性化のための「まちづくりボランティア活動」に参加してきましたが、職場を辞めて以降、このまちづくり活動のために費やす時間が大幅に増加してしまいました。

リタイヤしたら、西国三十三カ寺などを女房殿と巡り、のんびり旅行などして過ごしたいと思っていましたら、現在あらぬ方向に進んでいます。

なぜ、「たかが、ボランティア活動」ぐらいで自分の自由な時間が持てないないほど忙しいのか、その原因となっているものを探り当てることが、活動を持

続させていくうえで必要であると考えています。

私のまちづくり活動は「瓶原まちづくり協議会」をベースとして行っています。昭和26年4月に旧加茂町、当尾村、瓶原村が合併して加茂町が発足しましたが、この瓶原村区域を対象に協議会活動を行っています。(平成19年3月、山城町、木津町、加茂町が合併して木津川市が誕生しました)

瓶原地区一帯は、なだらかな丘陵地になっていて水田を中心にお茶等が栽培されており、風光明媚な土地であります。地区内には恭仁宮史跡や山城国分寺跡、海住山寺、大井手水路等の歴史的資源が豊富にあります。このこともあって、道路整備やほ場整備、下水道整備、集落内道路の整備、学校施設の整備などが遅れています。これらのことにより日常生活面で多くの不便や危険に遭遇したり、機械化営農や通作、物流等に多くの困難を来しています。さらに農業の担い手や後継者の問題も大きな課題となってきました。

このような課題をかかえる中、平成13年度から京都大学、牛野先生の指導のもと「神出方式」による住民主体の地区総合計画づくりが始められ、「自己点検調査書」(平成13年度)「構想計画書」(平成14年度)を踏まえて、「基本計画書」(平成15年度)をとりまとめ、平成16年8月、協議会総会において承認を得ました。「基本計画書」は、瓶原地区の課題を検討し、地区の10年~20年先を見通した内容となっており、計画ビジョンとして「恭仁の都を活かし、各世代が安心して暮らせる瓶原」をキャッチフレーズに掲げています。

平成16年度からは、行政主導のまちづくりから、真に住民主体のまちづくりへと転換し、住民のみによる運営により、地域おこしや基本計画書に掲げられた内容の実現化に向けて活動しています。

また、平成19年から、協議会を母体として地域の農地や水および環境を保全することを重点においた「瓶原農地・水・環境保全会」を結成して、活動をおこなっています。この保全会には、国・府・市から合わせて年間530万円の活動資金が交付されています。

さて、話を本題に戻しますが、「なぜ、こんなに忙しいのか」ということです。列挙しますと

組織の意志疎通を図るため「会議」は、事務局会議、役員会それぞれ1回は最低限必要です。

このためには、会議の招集、会議資料の作成、議事録の作成、議事録配布の事務が必要です。

広く住民に活動の内容を知らせる「広報」が必要です。毎月1回広報紙を発行しています。

広報の作成(写真の撮影・記事執筆)、印刷、配布単位毎の仕分けの事務が必要です。

年間の活動を定めるための「予算の作成・管理」が必要です。

このためには、年間活動予定、予算書の作成、予算の執行状況を把握する事務が必要です。

行事・工事などの費用の見積もり作業が必要です。

国等の交付金を用いて、補修工事などを行う場合は、適切な価格見積もりを行う事務が必要です。

交付金を出している機関への収支報告、実績報告書の作成の事務が必要です。

以上、これらの諸々の事務が重なり、忙しさの原因になっているのだらうと思います。この忙しさの解決策は簡単です。みんなで分担すれば良いのです。組織が円滑に活動するためには、上記の事務が偏ることなくメンバーに広く分担させることが重要です。事務を分担させる能力、すなわちお釈迦様の如く掌の上で動きを見つめる管理能力です。となれば、これら事務のために動いてくれる「人」を如何に集める・育成することが先ずもって行わなければなりません。この「育成」を相楽ふるさと塾に期待したいと思います。

これら事務に最低限必要になるのは、パソコン力であろうと思います。わが協議会には70歳代でパソコンを使用してパワーポイントでプレゼンテーションを行い、企画・実施の先頭に立って活躍している人もいます。

また、パソコン術に加えて、まちづくり活動に携わる者には、会議術(意見集約力)・広報術・見積もり術などについてチカラを蓄えることが必要ではないでしょうか。

## 受講内容をエネルギー源にして

木津川市 吉村 泰彦

私の住んでいる地域、瓶原は、歴史文化の資源が豊富にあり、風景は里地、里山の景観に恵まれ、季節の移ろいがよくわかり、鎌倉時代に開削された「大井手用水」が当時の面影を残し、ハイキング客が多数訪れる場所です。

でも一方で、地元住民の高齢化が進み、このままでは限界集落の危機が迫っている地域でもあります。

今、私たちは、地域から選出された人たちと「明日の瓶原へ繋ぐ」を合言葉に活動を展開しています。

その中で、「相楽ふるさと塾」の平成21年度のプログラムに地域資源を活かしたまちづくり等が取り上げられているのを知り、受講しました。

講座の中で、外ばかりに目を向けるのではなく、自分たちも楽しみながら活動する必要性が如何に大事かということを学び、明日からの仲間づくりに励んでいきたく、いい活性剤をいただき感謝しています。ありがとうございました。

## 若者が愛着や誇りを持つ町づくりをめざして

和束町 藤木 優里香

「相楽ふるさと塾」は地域の担い手づくりを目指して平成6年度から開設されてきたという。時々新聞記事等で目にしていたが、「何か難しそう、担い手なんで大変そう...。」という印象を持っていた。しかし、ある人から「参加してみませんか？実は和束町からは、今年は誰も応募者がいないんです。」と言われ、「それは大変、和束の恥や！」と変な動機で参加することになってしまった。また身近にAさんが、かつて「相楽ふるさと塾」の参加者だったこともわかり、「相楽ふるさと塾」に急に親しい気持ちを感じたことも幸いした。

印象的だった研修の1つは、管内視察である。相楽に生まれ育ち、相楽に勤務して32年、大体わかっているつもりであったが、実際に自分の目で視察してみて、知らないことの多さに気づかされた。変化著しい学研都市や、古い歴史と文化が残る町。山城町の茶問屋街、環濠集落など、2つの古都には含まれたこの相楽の歴史の深さと重みを改めて実感した。

和束町では、近年、小中学生が地域の主産業である「お茶」について学んでいる。特に中学校では、「お茶ができるまでの行程」「お茶の歴史」「お茶を使った商品開発」「パッケージ作りの工夫」「和束茶の広報活動やアンケート調査」などを通して、「お茶産業の現状と課題」を学んでいる。これは、文科省の指定を受けた研究発表でもあり、来年は全国に発信されるという。お茶作りにも取り組み、新茶の品評会では、2位という成績も収めた。私も食改員（食生活改善推進員）という立場でお茶を使った食べ物を中学生に紹介することがある。彼らの学びが、お茶への愛着となり、我町への誇りとつながっていくこと、そしてそのことが若者の永住化を促していくことに繋がれば...と願っている。私自身も賛同する仲間を増やししながら自然豊かな我町が、より魅力ある住みよい町になるよう、仲間とともにやっていきたい。

## 素晴らしい学びの機会に感謝

精華町 上川 清朗

### 塾活動に参加した背景 理由

昨年7月に経済危機のあおりを受けて34年間努めた会社を57歳で早期退職いたしました。

精華町に住み始めたのは今から26年前の1984年ですが勤務地が大阪市内だったのと15年近く東京や外地など各地を転々としていましたので地元とはほとんど関係が無く、地元の行事などには無関心でした。

今回時間ができたのでじっくりと故郷の現状、課題に向き合う事ができたことは非常に有意義だったと思います。

### 塾活動から得たもの

相楽郡の現状、課題など現地視察、先生方の講義を得て充分理解する事ができました。

過疎化、少子高齢化にともなう介護、幼児教育などの諸々の社会の歪、核家族化による絆の消失 エコ対策などなど解決していかなければならない沢山の課題を抱えていると思います。

明確な将来ビジョンを早く確立してそれに向けて着実にじっくりと官民がベクトルをあわせて対策を取っていく事が大切だと痛感しました。

### これからの活動にどのようにいかすか？

微力ではありますが過疎化に悩んでおられる南山城村と和束町の『村おこしイベント』、『町おこし行事』に積極的に参加していきたいと思います。

私の生まれ育った広島県の豊田郡風早村の良く似ているところがあり 故郷を思い出すことができるのです。

素晴らしい学びの機会を与えていただいた相楽郡広域事務組合の皆様、木村町長はじめ講師の皆様 他関係各位の皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。

## 大家族化の実現を目指して

精華町 和本 富雄

相楽ふるさと塾(第16期)に参加させていただき誠にありがとうございます。  
塾に参加して、相楽地域の現状、問題点、課題及び他の自治体の現状、村おこしに対する取り組み等について、各方面の先生方にご指導いただき、大変参考になりました。

今後、縦(0B)と横(同期生)のつながりを出来るだけ多く持ち、コミの充実を図り、いろいろな考えを膨らませて行きたいと思います。

そこで、今後については、

### 1.人が集まれる場所を設置する

\*井戸端会議、たまり場、定例会等

\*塾で学んだような事について共通認識を持つ

\*趣旨を理解していただける人達を多く集める

\*楽しく、面白く、無理せず、

\*個人負担は軽く、出来る事からコツコツと

### 2.テーマを決め、好きなテーマに参加する(重複参加可)

1.ごみ 2.介護 3.大家族 4.財政 5.過疎化対策 等

### 3.問題点を洗出し、課題を絞込む

### 4.改善案を作成する

### 5.政治家の先生、役所等 関係機関に対し意見を具申、又は協力要請する

特に、私が取り組みたいのは、大家族化に向けてです。

最近、核家族化や過疎地、老人の扱い等で、いろいろ問題(しつけ、道徳、教育、医療、介護、生活(交通)手段等)が見受けられます。

このような環境の中で、現在の不景気を機に、所得水準を意識した生活が必要ではないでしょうか!

その一つが大家族化です。

**大家族になり、3世代(親、子、孫)が同居し、家族みんなで支えあう環境を作ること!**

ただ、一人では、何も出来ません。

皆さんご指導、アドバイス等よろしくお願い致します。

## ふるさとは私達で創る

精華町 久保 吉明

### 1 地域の元気は産業の育成と集積から

生活の支えは産業から、産業が育たなければ若者が集まらないし、新しい文化も育たない、しかし、現在の産業はグローバル化しているにも関わらず短命な商品が多い。すべての企業は、激しい競争のため新製品の開発に追われ「むり・むだ」が多い。(3年・5年・8年周期で変わるため品数の管理が嵩む)若年者は何も持ち合わせないからすぐに購入出来、使いこなせるが高年者は古い商品を生かそうとすると対応しない為新しい商品に乗り遅れる、買わない。若者志向の商品に片寄、短命な商品が多様化する。経営の行きづまりを労働者に短期労働者を生み文化も育ち難いし社会不安もきたす。産業基盤は社会のニーズにあった長期的な視野に立った生産体制でなければ安定した雇用は成り絶たない。長期安定雇用は理想では無く基本です。

2 文化は人々の永い生活の中で生まれ、受け継がれ変化していく。それなりに、住み良い環境が欠かせません。若者・高齢者ともども常に公平な社会でなければなりません。子供の虐待・若者のしごき・高齢者の粗大ごみ化、これらは社会の悪である、お互いにつつしみ分かち合いながら助け合って行きたいです。(家庭、家族、兄弟等の絆が壊れかけている)小さい地球、これからの未来のために平和な文化国家を貫き育てて行きたい。

### 3 環境・観光・農業は日本の成長の要である

社会のニーズに合わない産業は人々の生活基盤を壊し、環境も悪化させ、健康にも悪い影響を与える。これから失われた多くの良きものを取り戻すため焦らず永い時間をかけて構築しなければならない。

その為には美しい自然を守り、環境に合った森林を育て、用途の高い木材を選択し奨励し増やさなければならない、食は生活の基盤です。安心して農民が専業農業で生活が守れなければ、我々の安心・安定した生活は守れない。

農村と都市・産業と研究者仲間・医師と臨床員・看護師と患者仲間その他多くの交流の場を広めて社会見学・体験学習・観光産業への底上げに寄与して、どこで働き、暮らそうとも社会から孤立させない透明な環境を創ることが大事です。

## 気づかされたことと、できること

精華町 佐藤 充洪

農林業の振興策と人口減対策について、多くの場所で多くの人が知恵を出し、実践し、成功事例を情報提供してくれていることを知った。12月19日(第7回)の資料“京都府NPO協働ポータルサイト”によれば、「まちづくり雇用促進」に絞っても、木津川市で10、笠置町で2、和束町で1、精華町で5、南山城村で3の21件のNPO法人がスタートしている。多分15期までの塾生OBが関わっているのもあるだろう。個人でやっておられる方もネットで情報発信しているかも知れぬ。

今回、和束町を見学したとき、府の景観に選ばれた山の頂きまで延々と剪定、手入れされた美しい茶畑を見て、何故この地が後継者難かと疑問をもった。(後継者難、即、休耕地、荒地と思っていたので。)共同化、機械化の合理化、省力化で人手が余って、働き盛りの人が外にでてしまうのか?外来の大型スーパーが地元個人商店を閉店に追い込んだようなことと同様のことが起きたのか?進学・通学・通院の交通の不便か?

傾向を知り対策を練る。講話から又、期間中の新聞報道からの成功事例から、こうしたら、ああしたらと思いつくことは色々あるけれど、総論賛成、各論反対をどうするか?地元の人が地元集落を守るため、空家、空地を援農者(土日だけ家庭菜園づくりの滞在)就農者に低額で貸与しましょうという機運にまで盛り上げるため、区長さんに熱き心を持ってもらうため、誰が誰に働きかけるか?自然愛護者、援農者、就農者をどう募集するか?

以前、新聞1頁全般に「鳥取県にIターンを」の広告が出た。先月電車に乗ったら「漁師求む(全国で)」の広告があった。ハローワークにコーナーを設けるとか、大学・高校生に熱き心、若い力で就農を、まちづくりをと訴えるか?現地、地元で、苦心して何とか、とっかかりを、きっかけをと考えている人は居るはずと思う。

傾向と対策をこれからも広報誌、新聞、図書館で学んでいきたい。昨年末に地元自治会の呼びかけで(年2回の歩道除草とは別に)公園も含めて町内清掃が行われ、3人1組で多数参加して、正月を前に達成感があった。気持ちはあっても1人でごみ袋を持ってあるいていたら、不審者として通報されかねないところであった。

熱き心でご理解、ご協力を...より、ウインウイン、一挙両得で...。との講師の話が一番印象に残っている。小さなことからやっていきたいと思う。

## 「相楽ふるさと塾」を受講して

精華町 菅野 智

私は平成 7 年、阪神淡路大震災が発生した年に精華町光台に引っ越して来ました。

勤め先が大阪にあり、「会社人間」として年を重ねてきましたため、相楽地域のことについては、行政・歴史・文化等何についてもほとんど知識もなく、「忙しい」を理由にして「知ろう」とする努力もせずに過ごしておりました。

今回、相楽ふるさと塾の「人と文化の交差点」、このフレーズに、「これは参加せねば・・・」と決心した次第です。

講師の先生方から開講以来、「地域資源とは」、「観光資源とは」、「地域の課題は」、「現状は」と改めてご指摘を受け、様々な課題が山積している事を、改めて認識することができました。

私たちの課題は、この現状認識した事柄を踏まえ、「如何に活力のある・住みよい街づくりのために考動するか」にあると思います。

「個人で出来ること」、「行政に依頼すること」、「両者共同で実施すること」に大別できるのですが、まず「自分が動く」事が肝要である事も痛感しました。

そこで一念発起、「地域で生かせる(であろう)資格を取ろう」と決断しました。

この資格が如何ほど地域のお役にたてるものなのか、全く確信はありませんが、合格出来たら「シルバー人材センター」に加入させていただき、「1%」でもお役にたてるよう頑張りたいと考えております。

また、その活動の中で共に研鑽・献杯できるお仲間が増えれば、至上の喜びと考えております。

ありがとうございました。

## 今、何をしたらいいのか！

精華町 竹内 かをる

今までは仕事、子育てであまり立ち止まって家族の生活以外のことは考える時間がなかったと思います。私自身、関心も薄かったのかも知れませんが...。この年齢になり、ふと立ち止まることがある。確かに時間ができたこともあるが...。もうひとつは、社会現象が変化して、誰かがやってくれる時代ではなくなってきたこと。また社会発展のしわ寄せが様々なところで現れて問題になってきていることも...。この私でも何かをしなければ...という気持ちになったと思います。

はじめに京都府立大学の宗田好史氏の講義は、大変インパクトがあり、今、世界は、日本が、相楽が、精華町が、大変だと印象を受けました。

まず、転換期にある日本、転換期にある政策、繋がり喪失、農業問題、食糧問題等々...。地球温暖化への対応で変化していく社会構造、そして気候変動への対応で自然災害で復旧に追われる時代到来等、真に迫った。

また、ヒューマンスキル研究所の小室邦夫氏では、時代のトレンド...。地域を取巻く環境の変化として、まさに揺らぐ時代、危機感なき悲観論、拠りどころの模索、納得できる生き方、アイデンティティー...まさにうまく言葉に表現されていると思う。これに少しでも近づく方法として、しっかりと知らなければならぬ、様々な法律のこと、大切だと感じました。

講義の中でも何度もお話になっていた、地方と国の具体的な法律例。何が何かさっぱり分からないけれど、何かをするときは、しっかりと把握しておかねばならないことなどを知りました。また、関心を持ちました。

実際にそれらを達成していくというか近づく具体としての“協働のまちづくりを考えよう！”は、例なども交えて話され、理解できた。

後半の講義での奈良県立大学の麻生憲一氏の地域学概論から始まり、地域資源についてのこと、なんとなく、具体に見えてきたようであった。また、ワークショップ形式での講義は特に他の人の気持ちを知る上で大変良かったと思います。また、ワークショップは、自分の気持ちの中で、具体的な物を見つけるのにも大変良かったと感じます。

「相楽ふるさと塾」の回数を重ねたこともあり、また、交流会、ワークショップを通じて、誰かと一緒に何か自分でも納得でき、少しは、まわりの人にも役立つことに...何かみつけないかと思っています。

## 受講の感想と取り組み

精華町 濱谷 勝

わがふるさとを知る...東地域は、人口の減少や、高齢化、限界集落などの目の前の課題に対し、それぞれ町おこしの取り組みがされ、さらに東地域が連携したパンフレット、広域観光マップづくりなどすばらしい取り組みと感じた。

西地域は、いわゆるハコモノの「私のしごと館の閉館」、「焼却場」など課題や利害、企業誘致など、学研都市計画の目算外れにかかる問題のほか、地域との交流など今後の課題を認識した。また学研都市の名にかくれ、東地域のような在来地域の町おこしの取り組みや連携が見えなかったのは残念であったがこれが現状なのか。

現地研修で実態を肌で感じることができ、私の第1の研修目的を達成できた。

ワークショップ研修は、わが町の課題の掘り起こしに楽しくでき、また他研修者からアイデアもいただき有効な手法と感じた。時間が不足気味であったのが残念であった。

私の取り組みについて...自治会内の年齢構成も65歳以上の高齢者が40%を占めるにいたった。世代間交流を深めるための新しい取り組みに竹灯火祭りや書初め教室を初めて2年、今回、趣味の発表会を企画している。お年寄りの参加協力、現役世代父子、母子の参加を推進し、世代間の話題づくり、対話作り、顔を知り合う機会を大いに作ってこころのかよう地域にすることを目指している。活性化と共に高齢化していく地域に、現役世代の自治会への積極参加・世代交代に繋がり、顔の見える・心のつながった「防災や弱者とのネットワーク作り」に繋がっていくことを信じぜひ成功し、定着させたいと思っている。また、精華町の地域課題についてはもっと内容を知り、活動してみたいと思う。

全体を通して中身の濃いカリキュラムでやや時間にゆとりがなかった感じであったが、その分はいただいた資料をこれから読み直していきたいと思う。

充実した研修でした。事務局の皆さんに感謝申し上げたい。

## お互いが友達であり理解し合うこと

精華町 村尾 礼示

自治会の活動など人の繋がりづくりに係わってきましたが、改めて地域における生活者として、また居住地・近隣地も含め生活者を理解することから、今回の塾受講を申込みました。

相楽圏域の地域における、高齢化や過疎化、産業の後継者の育成や不足問題、人口増加やインフラ整備などの課題があることも理解できました。

また、都市部いわゆる京都市の下町においては、隣近所や地域全体で子供を育て、生活弱者を見守り、地域完結型での生活が成りたっていたものが、昨今の経済状況の変化とともに特に若年者層の生活・居留意識の変化などから、子育て世帯の郊外や利便性の良い都市部への流出などによって、子供が極端に少ないまち 高齢者ばかりのまち 小・中学校の統廃合 地域活性化の停滞 自治会役員のなり手不足 地域の人々の繋がりへの薄れなどの実態があります。

相楽、地域に係わらず、それぞれが居住者として、自分・自分達で出来ること、地域含め団体で出来ること、我々地域に住まう住民と行政との課題解決が重複してもよいから、住みよい地域づくりのため、生活共同体としての取り組みが必要と思います。

最近の言葉で気になったものとして、地域での違いの表現に「地域格差」があります。

不適切な言葉であり、元来は価格や資格・等級など標準品に対する商品の差を言いますが、それぞれの地域には有るものと無いものがあって、同じものが同じだけと言う事はあり得ません。地域における現実・実状を直視して、正確に理解することが大切と考えます。

今後も、問題点の認識や改善すべき方策など各人各様の考え方があることから、お互いが理解仕合うこと、認め合いながら協調していくことが大切であると思います。

## 歩きたい小川の流れる歩道

精華町 矢野 由美子

「まちづくり」自分には縁の無いことだと思っていたのが、「相楽ふるさと塾」に参加したことにより、グッと身近に感じられる様になりました。地域に積極的に関わっていく重要性も学びました。どの地域でも一番求められているのが、人との交流・つながりだとも感じました。いろんな能力や、意欲のある人は多数います。そんな人たちが埋もれることなく、いかに地域に貢献出来て、また地域交流の核となれるか？それがうまくいけば、地域も元気になり、まちづくりの原動力にもなりうると考えます。

地域の間人間関係がうまく形成されれば、住みよい街になり、今いろいろ起っている社会問題も、お互いの助け合いでカバーできる部分も有るかと思われます。今の時代、失われがちなのが「人との交流」。何事も、突き詰めていけばここに突き当たる様にも思います。私は光台に住んでいますが、精華大通りと言う緑が多く、電柱のない広い歩道のある美しい街並みが有ります。でも、年月と共に雑草が生え、枯れた木やゴミなどで、その美しさがすすけてきています。歩道には小川があり、水が流れていたのが今では乾いたままです。今までの私は、「もったいない、汚い」と第三者的な見方をして嘆くだけでした。でも「相楽ふるさと塾」を受けて意識が変わりました。この街並みを守りたい。小川の流れる歩道を復活させたい。その為には私達住民の出来る事はないだろうかと考えるようになりました。予算と言う大きな壁が有り、実現は簡単ではないと思いますが、精華大通りの景観を美しく守ることで、学研都市と言うブランドを育てることにもなり、観光資源にもなりうると考えます。ウォーキングや散歩をする人は大勢います。そんな人たちが、緑と水の流、広い空間、青い空、人工の町で有りながらも、心安らく、癒される散歩道になる事を願って、最初の一步が踏み出せたらいいなと思っています。

## キーワードは

南山城村 南 仁志

「相楽ふるさと塾」、振り返ってみると 10 回にわたる講義もあっという間に終了を迎えてしまった感じがします。

事務局の方々には仕事とは言え、せっかくの土曜休日を犠牲にしてお世話頂き感謝いたしております。

受講開始前の抱負を今思い起こしてみると、その講義の内容は当初の目的と期待を十分に満たす内容であり想像していた以上にハイレベルでもあったと思います。

とりわけ印象に残ったのは西部地域の管内視察（打越台環境センター、木津川上流浄化センター）で、圧倒的な地域間格差を見せ付けられた思いで少々落ち込みました。

なぜなら、我が村には下水道はもちろんの事、いまだに上水道設備の行き届いていない地域も残されているからです。

余談になりますが、下水をあそこまで綺麗に処理して木津川に流すのであれば、水道水の水源を木津川から取水して浄化するより、再利用の方がコストは安くつくのではないかと思います。

「相楽ふるさと塾」では「身近な地域資源を活かしたまちづくり」をテーマに研修を受けたわけですが、我が村にいたっては開発に取り残された地域の自然、不便さを逆手に取って資源に転ずる事は出来ないかと思う次第です。

第一回の宗田好史先生の講義では、少子化、人口減少と高齢化、消費の縮小と転換（モノからサービスへ、量から質へ）と言った課題の中で、新木津川右岸地域の将来は自然と歴史文化を活かした地域づくりを検討する必要があるとのこと。

キーワードは、観光資源の活用、ブランド志向の農産物、付加価値を高める事だと考えます。

そこで、個人の取り組みの第一段階としては、南山城村と和束町が生産するお茶の量は宇治茶全体の 80% を占めるなど緑茶は村の主産物であることから、今後お茶に関する情報を収集し知識を吸収すること。

また、村には地域の活性化に取り組んでいる N P O 法人やグループが既に幾つか存在し活動されています。

自分に出来る事から参加させてもらい、今回学んだ知識を活かして行きたいと思っています。

## 創作活動が育まれる地に

木津川市 水島 真理

自然の豊かさに恵まれた相楽地域、資源、歴史もあり、豊かな地域だと思います。これからは、そのようなことを大事にしながら、人々、若い人たちが、生き生きと働き、魅力を感じる地にしてゆくことも大事だと思います。新しい街もできてきます。子供たちが育ってゆく中で、いろんな体験ができる（自然の中 etc.）ところになってゆけばいいなあと考えています。都会ではできない体験をもっともっと子供たちに味わってほしいです。大人がそういう環境を作っていくと共により楽しみ、すばらしい環境を将来に残していくとあがることも私たちの役目だと思っています。

万葉の時代からエネルギーのある地域ですし、現に地元には個性輝く人々が個々に創作活動をしています。なかなか線になって結びついてゆかない点がありますが、結集すると音楽、美術、舞踊 etc. なかなか面白いパフォーマンスができそうです。その舞台となる屋内は、宗田先生がお話しされたある舎を生かす。屋外は、それは、それは、沢山あります。大仏鉄道周辺は本当に魅力的です。歴史的な遺跡は、歴史そのものですから。そこで今生きている人々が、息吹を与えると昔と今が繋がって、すばらしいエネルギーになると常々思っています。

（お寺で現代音楽とか）今回受講させていただき、ますます、相楽に魅力を感じました。と共に漠然とした思いを少しづつ縁があって、結びついていってくれたらと思っています。楽しく学ばせていただきありがとうございました。

## 「相楽ふるさと塾」を受講して

木津川市 炭本 武

私は、加茂町瓶原地区全員が会員の“瓶原まちづくり協議会”で事務局に係わっています。この会の先輩から勧められ受講いたしました。が何人かの先輩が受講していることを知りました、先輩の幅広い知識と前向きな姿勢に引っ張られ、後押しをいただきながら今日までやれたのだと思っています。今回「相楽ふるさと塾」を受講させていただき、先輩の知識や行動力の源を垣間見たよう

に感じられました。

瓶原は市街化調整区域で農業主体の地域になっています、農家住宅しか建てる事が出来ないため、人口の増加を望めません、それに加え高齢化が進み農地の保全も難しくなっています。そんな中協議会では、朝市を開催し地元の野菜を直販しています、先日この朝市から女性による加工品開発の会”コスモス会“が設立されました。

私の小さな挑戦ですが、朝市への出品・コスモス会への資材提供等を目的に農地の受託組織を作り耕作放棄地が少しでも減ればと考えています。

相楽全体を視野にした提言は出来ませんが、今回の勉強を復習しもっと幅広い人物になれるよう頑張ります。

## 構成市町村のまちづくりの課題と方向性

精華町 五十嵐 勇

圏域を取巻くまちづくりの状況(B4サイズ)を詳しく読んでいますと各市町村の将来像・基本方針・そして策定等ですが、結論的にいえば、問題点であり、また、答えのように思えます。

これからは、この問題をどう解決していくかは、からみあった糸を1本1本とどう解いていくかではないでしょうか。5市町村ではなく、1つの広域な自治体として考えたら、解決できる方法があるのでは?と思います。例えば、確か(?)笠置町、和束町、南山城村で教育委員会を作った、これも1つの例ではないでしょうか。「相楽は1つ」で先に何かが見出せないだろうか、私たちの卒業生は約250名と聞いています。OBを中心に1つだけでもできたら、すばらしいことではないでしょうか。その小さなことが波紋となって、大きな波紋になれば...と思います。

これだけの立派な卒業生の力が集まれば、何か1つくらいはできると思います。終了とともに思いました。

## 活動概要

日 程	研 修 内 容・講 師 等
平成 21 年 10 月 3 日 (土)	開講式：講演・オリエンテーション / 木津川市「相楽会館」 講演：「相楽の地域資源を活かそう - 各地の取組に学ぶ」 講師：京都府立大学准教授 宗田 好史 氏
10 月 17 日 (土)	第 2 回：講演 / 木津川市「相楽会館」 講演：「山城地域の産業育成と観光振興への取り組み」 講師：京都府山城広域振興局商工労働観光室長 林 靖 氏
10 月 31 日 (土)	第 3 回：地域研究 管内視察研修（西部地域） 打越台環境センター（精華町）～きつづ光科学館ふぉとん（木津川市）～加茂あきんど まつり（木津川市）～茶問屋街（木津川市）～木津川上流浄化センター（精華町）
11 月 7 日 (土)	第 4 回：地域研究 管内視察研修（東部地域） グ린ティ和束「和束茶カフェ」（和束町）～茶畑風景（京都府景観資産登録地域）（和 束町）～田山生涯学習センター（旧田山小学校）（南山城村）～笠置寺（住職の法話）・ 笠置山行場めぐり（笠置町）
11 月 21 日 (土)	第 5 回：講演・現地視察研修 / 木津川市「相楽会館」 講演：「関西文化学術研究都市の近況」 講師：（財）関西文化学術研究都市推進機構 計画調査部長 芝村 雅樹 氏 講演：「ハーモニーシティ木津のまちづくり」 講師：UR 都市機構 西日本支社 関西文化学術研究都市事業本部 事業計画第一課長 寺元 明文 氏 現地視察研修（精華・西木津地区、木津南地区、木津中央地区）
12 月 5 日 (土)	第 6 回：講演 / 木津川市「相楽会館」 講演：「住民自治のまちづくり」 - 地方分権の流れと自治のしくみ - 講師：ヒューマンスキル研究所 主宰 小室 邦夫 氏
12 月 19 日 (土)	第 7 回：講演 / 木津川市「相楽会館」 講演：「協働のまちづくり」 - 地域資源活用の視点と対策 - 講師：ヒューマンスキル研究所 主宰 小室 邦夫 氏
平成 22 年 1 月 9 日 (土)	第 8 回：講演 / 木津川市「相楽会館」 講演：「地域の資源を活かしたまちづくり」 講師：奈良県立大学教授 麻生 憲一 氏
1 月 23 日 (土)	第 9 回：ワークショップ / 木津川市「相楽会館」 テーマ：「身近な地域資源を活かしたまちづくり」 第 1 部「地域課題を掘り起こす」 第 2 部「地域資源を活かす取組」 講師：奈良県立大学 教授 麻生 憲一 氏 協力：奈良県立大学麻生憲一ゼミ
2 月 6 日 (土)	修了式：基調講義・受講生意見発表・修了証書授与 / 木津川市「相楽会館」 演 題「21 世紀の相楽を考える 自然と農・農地は暮らしを豊かにするのか？」 講師：京都府立大学准教授 宗田 好史 氏

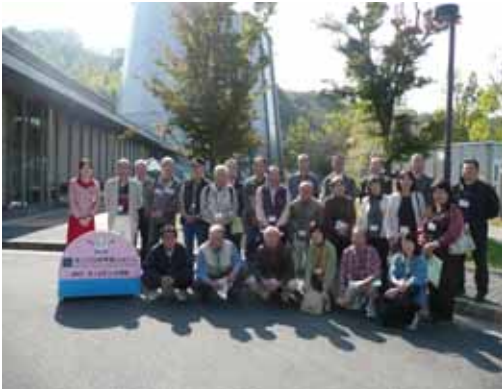
# 開催状況



開講式 平成21年10月3日



第2回 平成21年10月17日



第3回 平成21年10月31日



第3回 平成21年10月31日



第4回 平成21年11月7日



第4回 平成21年11月7日



第5回 平成21年11月21日



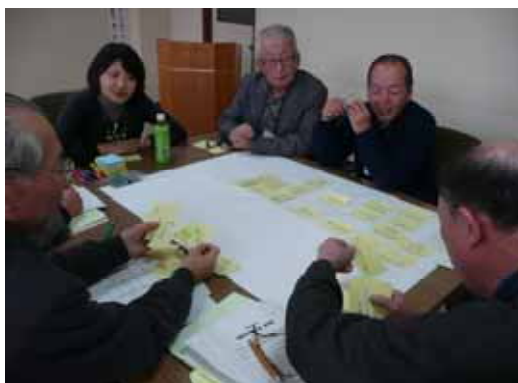
第5回 平成21年11月21日



第6回 平成21年12月5日  
第7回 平成21年12月19日



第8回 平成22年1月9日

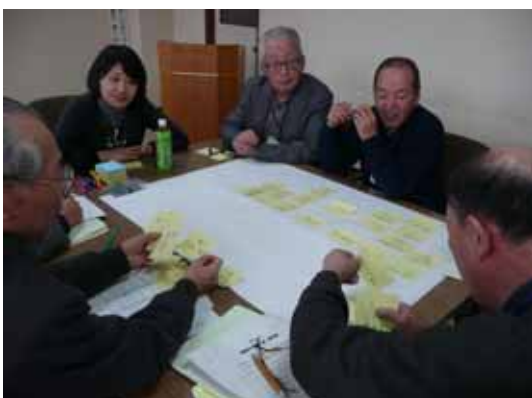


第9回 平成22年1月23日



修了式 平成22年2月6日

## 第9回ワークショップ開催状況



## <グループワークの記録>

### [グループ A]

参加者：浅田 武之、林 千歳、平井 清次、三村 俊雄、宮園 伸也、吉田 静子

ファシリテーター：小橋 慶子(奈良県立大学学生)

### 地域の課題

#### <仲間づくり>

- ・ 趣味仲間
- ・ 同志を募る方法が無い。
- ・ 独居世帯
- ・ 仲間づくり

#### <交通>

- ・ バスの数が少ない。
- ・ 昼間のバスが少ない。
- ・ 道路が狭い。
- ・ 高齢者の乗用車の乗り方。
- ・ 高の原駅前造成地、長期間空き地。早くなんとかして。

#### <住みよい街づくり>

- ・ 共生
- ・ 協力性がない
- ・ コミュニティ
- ・ 住民同士が顔も知らない。
- ・ リーダー不在
- ・ 話し合う場が無い(物理的・共感的)。
- ・ 近所の繋がり。
- ・ 団地住民と旧村落民がうまくやっているか。
- ・ 木津川市は合併市。うまくやっているのか。良い面の効果出ているか。
- ・ 相互の信頼感がない。
- ・ 住民の連帯感の欠如。
- ・ 市民だという認識が薄い。
- ・ 先立つ資金が無い。
- ・ 犬のマナー
- ・ 木津川市まず知りたい。
- ・ 安心・安全
- ・ 自主防災会

#### <情報>

- ・ 信頼感の前提となる個々人の情報が共有されていない。
- ・ 私のしごと館の活用。

#### 地域課題の緊急性

第1位

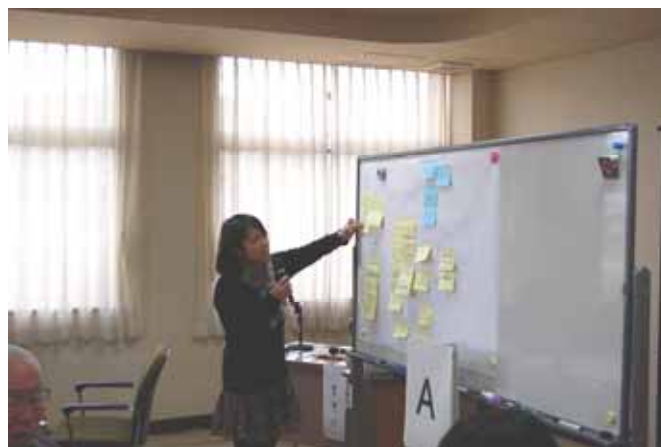
- ・ 住みよい街づくり
- ・ 仲間づくり

第2位

- ・ 情報

第3位

- ・ 交通



## 地域課題への対応

## 【個人としての対応】

### <ふれあい>

- ・ 一人暮らしの高齢者の方にはできるだけ話しかけて仲間に入ってもらう。
- ・ 子ども達の下校時に旗振りに参加して出来るだけ子ども達と会話したい。
- ・ 自治会・地区の行事に参加する。
- ・ 楽しい集まりをたくさん作ってみんなが参加して欲しい。
- ・ 自宅または公民館等で趣味の仲間と集う。
- ・ 地域の行事にみんな誘い合って参加していきたい。

### <観光>

- ・ 町のアピールできるものを広く全体的に(食・文化・文化財・史跡)。
- ・ 歴史(文化財等)を利用したハイキングを提案。

### <情報>

- ・ 全員加入の自治会作り。
- ・ 個人の持っているスキル・ノウハウ
- ・ 自治体と連携したリーダーの育成。
- ・ 個人の情報集約(地域で)。
- ・ 自治会連合ベースでの情報交換と財政支援

### <地域づくり>

- ・ 町内単位から協同活動(小単位から)。
- ・ 地域で活用できる組織作り。
- ・ 自治会組織と行政の自治組織の一元化。
- ・ 自治会館のメンテナンスルールの明確化(行政と自治会)。
- ・ 町の美化を住民の手で行う(現状は市のボランティア)。
- ・ ぐるりんバスの敬称とコストダウン。
- ・ 高の原と木津の二ヶ所を行政センターに構築(病院やその他行政施設)。
- ・ 今年はバス増便のために何かしたい(方法は?)。
- ・ 木津川市観光センターの立地の再検と内容の充実(一部の人の立ち上げをオープンに)。
- ・ 学研都市としての行政の一元化。
- ・ 街づくり、市がもっと自治会を指導。
- ・ “相楽地域まつり”を一本化で盛大に。
- ・ 街づくり。団地・・・市が絵を描く。誘致積極的に。

緊急

### <環境美化>

- ・ ごみ焼却場新設への市民の意見集約の場を。
- ・ 木津川の整備と美化。
- ・ 木津川を活用。観光に。笠置町のように。
- ・ 緑の共存。ハコモノの抑制。

### <防災ボランティア>

- ・ 自助・共助の組織作りと自主防災。
- ・ 自治会単位の防犯防火の組織作り。
- ・ 安全・安心なまちづくり。環境整備。
- ・ 生がい大学への内容の充実。
- ・ ボランティアの育成

## 団体・行政に求める対応



## 【グループB】

参加者：坂田 夏夫、炭本 武、長柄 教雄、福井 満、森下 譲二、吉村 泰彦

ファシリテーター：長谷 明日香(奈良県立大学学生)

### 地域の課題

#### <コミュニティ>

- ・ 公園のゴミ
- ・ 駅での若者達のたむろ。ゴミ捨て。
- ・ 地域のつながりどうしたら増やせるか。
- ・ 若い世代との考え方が違いすぎる。
- ・ 近隣での横のつながりが少ない。

#### <人口問題>

- ・ 若者の地域離れ。
- ・ 高齢独身者(男女とも)
- ・ 子どもと親、所帯が別(別居)
- ・ 少子化
- ・ 少子高齢化(小学生58名)
- ・ 小学校の廃校の恐れ
- ・ 高齢対策
- ・ 集落の人たちの年齢が高齢化しすぎている。

#### <農業環境>

- ・ 荒地(耕作地)
- ・ 農業用水路
- ・ 遊休農地の増加
- ・ 農地の荒廃
- ・ 農地がせまい。圃場整備。
- ・ 農地の整備が遅れている。衰退
- ・ 猿・アライグマの害、鳥獣害。対策。
- ・ 近隣山の荒れ

#### <地域対策・産業>

- ・ 海住山寺の国宝五重塔の活用。
- ・ 恭仁宮蹟在化 観光ではない
- ・ 歴史的資源が多くある。
- ・ 企業が少ない。
- ・ 近くでの企業が少なく若年層が日常の地域の活動に参加しにくい。
- ・ 地域の真ん中が公有地になっている

#### 地域課題の緊急性

第1位

・ 農業環境

第2位

・ 生活環境

第3位

・ 人口問題

#### <生活環境>

- ・ 集落の中の道路がせまい。
- ・ 道路網(災害時も危険)。
- ・ 生活環境整備のおくれ(下水道・道路狭い)。
- ・ 下水道(汚水が田畑に溜まってしまう)
- ・ 下水道の実現(全体)
- ・ 今より高齢になったときの病院・買い物・各所への足がない。
- ・ 道路を整備する(全体)
- ・ 水・空気をきれいに保つ(地域)
- ・ 自然災害への備えがない(土砂流れ・浸水)



## 地域課題への対応

## 【個人としての対応】

### <主に個人の対応>

- ・ 家庭菜園的なものが多く、販売目的が少ない。
- ・ 農山村の風景を守るための荒廃地の解消。
- ・ 特産地の活性化(柿等、鹿背山。)
- ・ 獣害対策(計画)を実現できるものに。
- ・ 烏獣害駆除の猟銃の許可を在住の人が持つように。
- ・ 海住山寺への道路改良、道路の整備。
- ・ 観光案内看板の整理(統一されてない)。
- ・ 恭仁京の訪問者の受け入れ施設(トイレ・休憩所)
- ・ 恭仁宮跡のビデオ(10~15分ぐらいの)を作って観光者に見せるようにしたい。
- ・ 観光バスの駐車場(恭仁宮跡)
- ・ 観光の面からもっと奈良と一本化の取り組みが必要。
- ・ 木津川整備して住民の憩いの場に。
- ・ 農業、協働組織の設立と育成(指導助成)。
- ・ 観光資源生かすためハイキングルート周辺の整備。

### <個人も行政も>

- ・ 地域資源を生かす取り組みに温度差がありこれを解消する方法を。
- ・ 保全会の予算を継続して農地整備を促進する。
- ・ きれいな里山の保存のための取り組み。
- ・ 山の整備、竹林の活用。
- ・ 農産物の直売所設営。道の駅。ネットワークづくり。

### <行政・インフラ>

- ・ 公共下水道の整備。地域の排水整備。実現により近代的な生活環境を実現したい。
- ・ 圃場整備の実現。
- ・ 農地の整備。
- ・ 土地利用計画の再編(市街化調整区域)。住居区域の創設。若い世代の定住促進。
- ・ 年々進んでいる公有地を行政、地元と共にどのように取組めば。
- ・ 高齢化対策。少子を多子に変化させる為に住宅地を増やしてニューファミリーを勧誘する。増地の宅地化。

### <行政に求める対応>

- ・ 交通網の整備(JR線3本。複線化を。)
- ・ 大井手水路の改修。
- ・ 住民のボール建設。
- ・ 住民の意識を向上させたい。現状に満足せずもっと近代化を。戦う集団に。
- ・ 行政は域内全域を公平に扱って欲しい。(差別されている)
- ・ 歴史的資源に囲まれて生活しているが地元は古代的生活環境を余儀なくされ困っている。他所から見れば良い所かも知れないが中はそうでもない。
- ・ 誰もが住みたい町づくりを実施。行政と住民が一体となって政等、実現。
- ・ 行政は地域の要望に目を向けるべきである。
- ・ 眠っている文化財をいかに活用するか。
- ・ 猿を一網打尽にする施策。
- ・ 木津駅周辺の整備(10~20年見越した)。
- ・ 猟銃免許の補助。

## 団体・行政に求める対応



【グループC】

参加者：矢野 由美子、佐藤 充洪、和本 富雄、菅野 智、竹内 かをる、村尾 礼示  
ファシリテーター：青谷 奈美衣(奈良県立大学学生)

地域の課題

地域課題の緊急性

第1位

- ・地域交流
- ・高齢者対策

第2位

- ・環境保護

第3位

- ・雇用対策

第4位

- ・子ども対策

第5位

- ・ハコモノ対策

第6位

- ・交通対策

第7位

- ・健康対策

<ハコモノ対策>

- ・ 精華町ハコモノ(私のしごと館)
- ・ 町内会館の使い方(いつも使っていない)

<交通対策>

- ・ 買い物等が車がないと不便
- ・ 交通の便
- ・ 車の騒音が激しくなってきた。

<地域交流>

- ・ 新住民と地元の人との差。
- ・ 地域のつながり
- ・ 若い人とコミュニケーション
- ・ ご近所づきあい
- ・ 個人間の接触が少ない。

<子ども対策>

- ・ 子どもの見守り。
- ・ 少子化対策

<高齢者対策>

- ・ 住民の高齢化
- ・ 光台住宅地の孤独高齢者が増加傾向
- ・ 介護対策

<雇用対策>

- ・ 企業誘致対策
- ・ 労働する場所が少ない。

<健康対策>

- ・ 病院不足(専門科)

<ゴミ対策>

- ・ 道路沿線に放置物が増加してきている。
- ・ ゴミの仕分けが複雑。
- ・ ゴミ処理場対策
- ・ ゴミの出し方

<環境保護>

- ・ 農業対策
- ・ 荒れた田畑が目立つ
- ・ 里山の荒廃
- ・ 緑が少なくなっている
- ・ 光台六丁目角のクスノキを守りたい。



## 地域課題への対応

## 【個人としての対応】

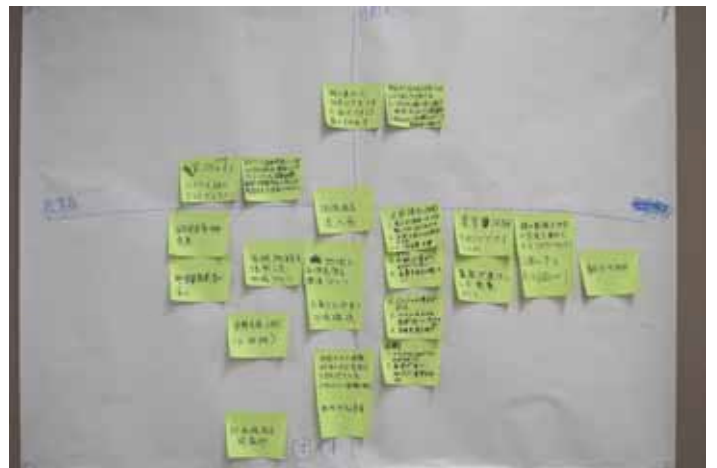
- ・ 町の美化に住民の力を上手に協力してもらうように引き出す。
- ・ 光台6丁目の自治会では一人ぼっちの老人を無くすため、婦人会の協力で喫茶・おしゃべり・麻雀会を毎月6の日3回開かれている。積極的に参加したい。
- ・ 買い物を代行するNPOを誰か立ち上げてください。
- ・ 「まちづくり雇用促進」にしばってもNPO法人が郡内 21 件スタートしている。活動目標・範囲で合致するものあれば連絡先を訪ねてみたい。

- ・ 活性ある老人会。
- ・ 国会図書館関西館の利用促進。
- ・ まちの図書館蔵書が古い。
- ・ 学研施設を活用した地域づくり。
- ・ 体験交流(小学生)(山・田・畑)
- ・ 計画性ある町並み
- ・ 地域で子どもを守る環境づくり。
- ・ 子育てしやすい地域環境。
- ・ 地域の人情報が無いので交流を妨げている。(プライバシー保護の名の下)
- ・ 新旧町民の交流。

- ・ 大家族化(同居)  
老人が病気・介護状態でもすぐわかる。  
子どもと老人との接点ができる。  
・ 住居費不要。  
子どもの守、しつけができる。  
光熱水量があまり増えない。  
食費もあまり増えない。  
人と人との接点もてる。  
田舎には大きな家が多い。過疎地が多い。  
交通も車で送迎。  
(問題点) 人と人とのつながりのわずらわしさ  
雇用がない。地域で雇用を確保する。

- ・ 農業体験を近くでできるしくみ。
- ・ 農家が連携した営農づくり。
- ・ 緑の整備を住民の交流を兼ねてやる(ボランティア)。
- ・ 公園の木を育てる(個人が)。
- ・ 廃材(木・竹)利用。

## 団体・行政に求める対応



## 【グループD】

参加者：藤木 優里香、久保 吉明、濱谷 勝、上川 清朗、南 仁志

ファシリテーター：國子 慶順(相楽郡広域事務組合)

### 地域の課題

#### 地域課題の緊急性

第1位

・行政

第2位

・社会福祉

第3位

・地方自治・コミュニティ

第4位

・環境

#### <行政>

- ・ 道路・歩道の整備が不十分(安全性)
- ・ 学研都市は何だろうか。住民のメリットは何だろうか。
- ・ 近くにコンビニが無い。
- ・ お茶産業以外の活性化がはかれない。
- ・ 農業後継者の減少。
- ・ 町から(民間)委託がどんどん自治会へ。受け皿は？
- ・ ライフラインの整備。
- ・ 地デジ対策が遅れている。
- ・ 財政の健全化。
- ・ 福祉行政がみんなに知れていない。

#### <社会福祉>

- ・ 高齢者のセーフティネットが把握できていない。
- ・ 老人介護。デイサービスなど割高。
- ・ 老後の行き場所。
- ・ 人口の減少、高齢化

#### <環境>

- ・ 雑草が多い。
- ・ 公園内の清掃。
- ・ 道路樹木管理。
- ・ 猿の被害になすすべなし。
- ・ 犬・猫のふん。
- ・ 河川のゴミ。
- ・ 休荒田の増加。
- ・ 竹林が荒れている。

#### <地方自治・コミュニティ>

- ・ 隣近所との関係があまり無い。
- ・ 隣のアパートがうるさい。
- ・ 駐車場が少ない。路上駐車が多い。
- ・ 自治会活動が低迷。
- ・ 町の活性化への無関心。
- ・ 現役世代が地域の役割に中心的・積極的に出てこない。
- ・ 町民みんなが一緒になる場が少ない。
- ・ ボランティア精神の欠如。



## 地域課題への対応

## 【個人としての対応】

- ・ 駅前の居酒屋(JR・近鉄の交差点)

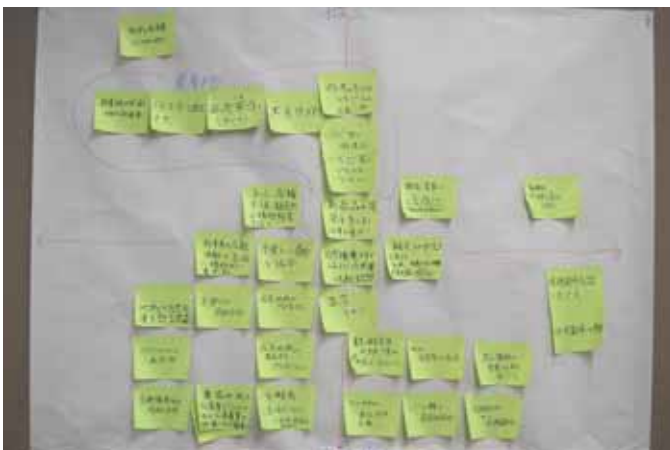
- ・ 自然環境を生かしたイベント開催(長寿村施設づくり)。
- ・ 現役・若者を地域活動の主役に。
- ・ ネット・店舗を使い販売所の積極経営を図る。
- ・ 竹材を守るNPO
- ・ 和束茶の広報活動を広域に積極的に展開する。
- ・ 不便という資源を活用。

### <農産物>

- ・ 特産物の開発。付加価値等。
- ・ イチゴ作り拡大・PR。
- ・ 海老芋作り
- ・ 黒豆作り
- ・ ゆるキャラづくり(いちごちゃん、お茶、他)
- ・ いちご祭の活性化
- ・ いちごパティシエ、ケーキ作り。
- ・ 新商品の開発を多くする(お茶を使った)。

- ・ 温泉探し
- ・ 農業・観光資源のPR強化。まず町民が知ること。
- ・ TVを活用した宣伝活動、広報
- ・ 在来地域の活性化、農産物のブランドづくり
- ・ 木津川の有効活用
- ・ 地域の自然回復を図る(桜の並木道路)。
- ・ 花空間けいはんな(フラワーセンター)の再活用
- ・ 自衛隊基地の有効活用
- ・ 農協や町の代表者でじっくりと町の茶産業の将来像について論議して欲しい。(お茶産業者、町民(一般))
- ・ 皆の農園、道の駅づくりで、新旧他交流活性化
- ・ 町内各集落との交流
- ・ 私のしごと館の再有効活用
- ・ 老人福祉の充実にまちおこし
- ・ 学研都市から国際都市へ
- ・ 学研都市を活かしたPR
- ・ 研究都市への参加

## 団体・行政に求める対応



## 平成21年度 相楽ふるさと塾（第16期）開設計画

### 1 目的

「相楽ふるさと塾」は、平成4年度に「ふるさと市町村圏」の指定を受けたのを機に「人と文化の交差点・相楽」を具体化し、地域の担い手づくりを目指して平成6年度から開設してきました。

相楽圏域は、東部地域の農業の後継者育成や過疎問題、西部地域の人口急増による都市問題など多くの課題に直面しています。地方分権化や住民自治が叫ばれる今日、これらの諸問題を解決するためには住民と行政との連携がますます重要になっています。

第16期目を迎えます今年度は、「身近な地域資源を活かしたまちづくり」をテーマに研修を進めます。

### 2 テーマ

人と文化の交差点・相楽<sup>そららく</sup> ～身近な地域資源を活かしたまちづくり～

### 3 開設時期等

平成21年10月から平成22年2月にかけて、全10回の開催とします。基本は土曜日の午後（1講座3時間）ですが、現地研修のみ1日となります。

### 4 開催プログラム

	開催日	内容	開催場所
開講式		開 講 式	
第1回	10月3日(土)	講 演：「相楽の地域資源を活かそう - 各地の取組に学ぶ」 講 師：京都府立大学准教授 宗田 好史 氏	相楽会館
第2回	10月17日(土)	講 演：「山城地域の産業育成と観光振興への取り組み」 講 師：京都府山城広域振興局商工労働観光室長 林 靖 氏	相楽会館
第3回	10月31日(土)	管内視察研修(西部地域) 木津川市・精華町	現 地
第4回	11月7日(土)	管内視察研修(東部地域) 笠置町・和束町・南山城村	現 地
第5回	11月21日(土)	講演：「関西文化学術研究都市の近況」 講 師：(財)関西文化学術研究都市推進機構 計画調査部長 芝村 雅樹 氏 講演：「ハーモニーシティ木津のまちづくり」 講 師：UR都市機構 西日本支社 関西文化学術研究都市事業本部 事業計画第一課長 寺元 明文 氏 現地視察研修(精華・西木津地区、木津南地区、木津中央地区)	相楽会館 現 地
第6回	12月5日(土)	講 演：「住民自治のまちづくり」- 地方分権の流れと自治のしくみ - 講 師：ヒューマンスキル研究所 主宰 小室 邦夫 氏	相楽会館
第7回	12月19日(土)	講 演：「協働のまちづくり」- 地域資源活用の視点と対策 - 講 師：ヒューマンスキル研究所 主宰 小室 邦夫 氏	相楽会館
第8回	1月9日(土)	講 演：「地域の資源を活かしたまちづくり」 講 師：奈良県立大学教授 麻生 憲一 氏	相楽会館
第9回	1月23日(土)	ワークショップ 講 師：奈良県立大学教授 麻生 憲一 氏	相楽会館
第10回	2月6日(土)	意見発表(一年間を振り返って) 講 演：「21世紀の相楽を考える 自然と農・農地は暮らしを豊かにするのか？」 講 師：京都府立大学准教授 宗田 好史 氏	相楽会館
修了式		修 了 式	

開催時間については、午後1時30分～午後4時30分(視察研修を除く。)  
日時、場所、内容などは、都合により変更となることがあります。

## 5 受講対象者

原則として、相楽圏域（木津川市及び相楽郡）に在住・在勤する満18歳以上で、相楽地域のまちづくりに関心を持っている方。ただし、平成20年度「相楽ふるさと塾」を受講した方は、ご遠慮ください。

## 6 定 員 30人

## 7 申し込み・問い合わせ先

まずは、各市町村担当窓口・相楽郡広域事務組合事務局にお問い合わせください。基本は先着順にしますが、市町村に極端な偏りがでないよう調整させていただくことがありますので、ご了承ください。

（相楽郡広域事務組合ホームページ上からも申込書をダウンロードできます。）

〔締め切り：8月28日（金）〕

市 町 村 名	担 当 課	電 話 番 号
木 津 川 市	学研企画課	(0774)75-1201
笠 置 町	企画観光課	(0743)95-2301
和 束 町	総 務 課	(0774)78-3001
精 華 町	企画調整課	(0774)95-1900
南 山 城 村	総 務 課	(0743)93-0101
相楽郡広域事務組合	事 務 局	(0774)72-0421

## 8 受講者の決定

9月7日（月）までに決定し、申込者ご本人に連絡させていただきます。

## 9 参 加 費

参加受講料は無料。（ただし、資料代として2,000円を徴収させていただきます。その他に、現地研修の場合、施設や寺院等の拝観料、食事代などは自己負担となります。）

## 10 そ の 他

全10回のうち原則として7回以上の出席がない場合は修了証書の交付は認められません。

**【主 催】** 相楽郡広域事務組合

# 平成 21 年度 相楽ふるさと塾修了生名簿

相楽郡広域事務組合

	市町村名	氏 名	住 所	備 考
1	木津川市	<small>あさだ たけゆき</small> 浅田 武之	兜台	
2		<small>はやし ちとせ</small> 林 千歳	木津川台	
3		<small>ひらい きよつぐ</small> 平井 清次	木津	
4		<small>みむら としお</small> 三村 俊雄	木津川台	
5		<small>みやその のぶや</small> 宮園 伸也	相楽台	
6		<small>よしだ しずこ</small> 吉田 静子	木津川台	
7		<small>さかた なつお</small> 坂田 夏夫	南加茂台	
8		<small>ながら のりお</small> 長柄 教雄	加茂町例幣	
9		<small>ふくい みつる</small> 福井 満	加茂町井平尾	
10		<small>もりした じょうじ</small> 森下 譲二	加茂町西	
11		<small>よしむら やすひこ</small> 吉村 泰彦	加茂町例幣	
12	和 束 町	<small>ふじき ゆりか</small> 藤木優里香	石寺	
13	精 華 町	<small>うえかわ きよ お</small> 上川 清朗	祝園	
14		<small>かずもと とみお</small> 和本 富雄	山田	
15		<small>く ぼ よしあき</small> 久保 吉明	祝園西	
16		<small>さとう みつひろ</small> 佐藤 充洪	光台	
17		<small>すがの さとし</small> 菅野 智	光台	
18		<small>たけうち</small> 竹内かをる	光台	
19		<small>はまたに まさる</small> 濱谷 勝	南稻八妻	
20		<small>むらあ れいじ</small> 村尾 礼示	光台	
21		<small>やの ゆみこ</small> 矢野由美子	光台	
22		南山城村	<small>みなみ ひとし</small> 南 仁志	北大河原

再受講者

平成 21 年度

「相楽ふるさと塾」活動報告書

---

発行日 平成 22 年 3 月 30 日

発 行 相楽郡広域事務組合

〒619-0214

京都府木津川市木津上戸 15

相楽会館内

T E L 0774 ( 72 ) 0421

E -mail kouiki@souraku-kyoto.or.jp



みんなで作る  
人と文化の交差点  
相楽

